

1. 上智大学の教育理念について

上智大学は1913年の開学以来、国や言語、学問の境界線を越え、キリスト教ヒューマンズムに基づく教育を展開してきました。本学はこれからも、手を差し伸べるべき困難な状況下にある人たち、すなわち「他者」に寄り添い、今日の世界が直面しているさまざまなグローバル課題の解決を目指すための学問・研究に力を尽くします。

そして、世界の人々とともに歩む隣人性と、対話と相互協力による多様な価値観を認め合う国際性を持ち、持続可能な未来のためにFor Others, With Othersを実践できる人を育てるべく、教育・研究活動を推進していきます。

2. 教育の特色

(1) 文理ワンキャンパスの強み

文系、理系すべての学部が一つのキャンパスにあることで、多様な分野の科目、文理融合的な科目を履修することが可能です。全学共通科目だけでなく、専門科目にも他学部・他学科の学生が履修できる科目が多くあり、将来に向けて視野を広げられる環境です。

(2) 基盤教育の展開

「基盤教育」は、全学共通科目、語学科目、学部学科の専門科目の有機的連携を推進させることで、「自律的な学修者」の育成を目指すものです。全学共通科目では、1、2年次に履修する必修科目と選択必修科目に続き、3、4年次では高学年科目を履修します。学科科目や語学科目の履修を通して、一定の専門性を身に付けた3、4年次生が、個別の専門領域を超えた学問横断的発想や、大学における知と現代社会との関係づけなどについて学ぶことにより、自身の専門性を深めるだけでなく、学修を通じて多様な視点を修得し、進路選択や卒業後の学びに生かすことを期待しています。

(3) 外部機関との連携による多様な学びの機会

国際機関や企業との協定に基づいて開講される授業やインターンシップ科目*2 など、外部機関との連携を活かした科目も数多く開講されています。受講した学生からは、実社会の事例から多くの刺激を受けたとの声も聞かれます。

*2: インターンシップ科目

本学と協定を結んだ実習先(グローバル企業、国際機関、国際協力団体、駐日外国公館、報道機関など)で、対面、オンラインいずれかでインターンシップ(就業体験)を行い、事前・事後の講義受講や課題提出と合わせて取り組むことで全学共通科目(選択科目)の単位が付与されます。就業・実務経験を通じて、大学で学んだ専門知識や技能をグローバル社会の中でどのように活かすのか、あるいは自分が今後の大学生活で何を学ぶべきか、といった気づきを得るため、主体的に学ぶ姿勢が求められる科目です。当科目を履修するためには、書類選考、面接による学内選考に合格し、場合によっては実習先による審査を通過する必要があります。2025年度は約30件の実習先で実習を行うとともに、一部は海外でも実施しました。特に国際機関とのインターンシップは国際機関の本部、海外事務所、日本代表部等で実施しており、本学の国際的なネットワークを活かした特徴ある科目の一つです。【担当:グローバル教育センター】

3. カリキュラム構成

各学科のカリキュラムは「全学共通科目」「語学科目」「学科科目」の3つで構成されています。大学では高校までと異なり、在籍する学部・学科のカリキュラムに基づき、将来の目標や進路も意識しながら、学生自身が綿密な履修計画を立てる必要があります。大学から発信する様々な情報(履修要覧、学生ポータルサイトの掲示等)を学生自らが注意して収集

し、迷う時には学科の教員に相談するなど、自主的に行動していくことが求められます。

全学共通科目

全学共通科目は、学生が4年間を通して、学科科目や語学科目と併行して履修することにより、学びの幅を広げ、深めることができるカリキュラム体系になっています。上智大学の教育の根底にある「キリスト教ヒューマニズム」の精神を学び、様々な学びに必要となる汎用的な能力を身に付け、幅広い知識と多角的な視座から、課題を見つけ、問いを立て、解決する力を養う様々な分野の科目を提供しています。また、海外ボランティアや体験学習を組み込んだ実践型プログラムやグローバル企業、国際機関、国際協力団体等を実習先としたインターンシップ科目もあります。これらの科目を履修することにより、「他者のために、他者とともに」生きる人として、生涯学び続け、よりよい世界の実現に寄与するための基盤を築くことを目的としています。

語学科目

1年次生が必修として学ぶ英語科目”ACADEMIC COMMUNICATION”は、各分野の知識と言語能力を同時に向上させる最新の英語教育方法”CLIL”に基づいており、入学後実施されるプレイスメント・テストをもとに各レベルに分かれて履修します(英文学科、英語学科、国際教養学科、理工学部英語コース、SPSFはカリキュラムが異なります)。英語を習得するだけでなく、小論文の書き方やプレゼンテーションの仕方など、英語の運用方法も学びます。1年次の秋学期からは春学期に学んだスキルを使い、多彩な選択科目を履修することができます。また、私立大学としては最多規模の全 22 言語の外国語の授業を提供しています。

学科科目

専門科目である学科科目は、学年を追って内容が高度になりますので、年度ごとに作成される『履修要覧』を参照し、順序立った履修計画を立て、段階的に修得していくことが望まれます。また、他学部・他学科の科目を履修できる仕組みや、英語を主言語として教授する授業も多く提供しており、学生は自分の興味・関心に応じて多様な履修計画を立てることができます。

4. 履修や成績評価基準について

(1) 履修について

履修に関する情報は、本学WEB PILOTIに掲載する履修要覧のほか、「My Sophia」(学生ポータル)を通じて学生に周知しています。履修登録や成績確認は教学支援システム「Loyola」で行います。

(2) 成績評価制度について

学力の評価は、担当教員の授業方針・評価方針によって、試験(筆記・口頭・実技など)、レポート、授業参加の状況その他に基づいて行われます。

各科目の成績評価は、担当教員がシラバスで明示した評価基準・割合に基づき、GPA(Grade Point Average)として付与されます。GPAは学生が受け取る成績表に記載され、学期ごとの努力や達成を測る、ひとつの目安となります。

※GPAは、大学院進学、留学の選考、奨学金採用などにあたって重要な要素にもなります。

※学生が学期末の成績評価(A～D、F)に疑問をもった場合に、担当教員に対して成績評価を確認できる「成績評価確認願」制度があります。これは「評価」の公平性、透明性を確保するためのものです。

(3) クラス主任制度、およびアカデミックアドバイザー制度について

各学部、学科の学年、クラスあるいはゼミ単位で、クラス主任(教員)がおり、学業や進路のこと、学生生活上の悩みなどのアドバイスを受けることができます。また、クラス主任とは別に各学科にアカデミックアドバイザーがおり、履修計画、成績など学習全般に関する相談や、留学、単位の換算などの海外勉学に関する相談について、指導、助言を行っています。

(4) 成業の見込みがない場合について

上智大学では、成業の見込みのない場合の措置として、連続する2か年において合計32単位以上を修得できない場合は、退学となることを定めています(学則第40条)。

また、一部の学科では、学科が指定する科目を2か年連続して修得できなかった場合も、同様に退学となることを定めています。学生自身が学科の要件を十分に理解・認識しておく必要があります。

なお、そのような事態を未然に防ぐため、GPAが0.5未満であった学生に対して、学年末に所属学科から連絡し、個別に指導する制度を導入しています。学生自身が学生生活や勉学計画を振り返り、今後の履修や勉強の進め方などを学科教員と相談する機会を設けることにより、自分自身で改善への道筋を見出す契機としています。

なお、勉学や心身の悩みについては、学科教員だけでなくカウンセラーや職員も、年間を通して希望があればいつでも相談に乗る体制を整えています。

5. 学習支援

① Language Learning Commons (LLC)、英語学習アドバイザー

6号館1階のLanguage Learning Commons (LLC)は語学学習に特化した自律学習のための施設で、授業以外での語学学習を充実させるため、様々なサービスを提供しています。語学力向上に役立つ書籍の貸出やDVDの視聴サービスのほかに、自宅でできるE-learning教材が無料で利用できます。英語学習専門のアドバイザーに英語の勉強方法について相談することもできます。

大学院生・上級生や留学生が各言語の指導員となり、週1回の会話を中心とした少人数グループレッスンを行う「外国語コミュニケーショングループ」は多くの学生が利用しています。日本語を学習中の外国人留学生と外国語を学習中の日本人学生がランチタイムに交流するLanguage Exchangeも人気があります。TOEICやTOEFLの集中セミナー、英語のスピーキングやライティングに特化した企画や、リーディングマラソンなどの企画も実施していますので、大いに活用してもらうことを期待しています。【詳しくは、言語教育研究センターのページをご覧ください】 <http://www.sophia-cler.jp/llc/>

② ライティング・ラボ

ライティング・ラボは、日本語のレポート・論文を執筆する際の論の展開方法や構成、参考文献の示し方、引用方法等について個別に相談することができます。学術的な文書作成において、書く力をつける手助けをします。書き始める前の構想の段階から、一度書き終えたあとの推敲の段階に至るまで、どのような段階での相談でも構いません。レポートや論文のような文章を書くのが初めての方、少し苦手だと思っている方の利用も歓迎します。【詳しくは、基盤教育センターのページをご覧ください】<https://piloti.sophia.ac.jp/jpn/clcl/writinglab/>

③ データサイエンス・クリニック

データサイエンス・クリニックは、統計学の授業内容からサークルでのアンケート調査に至るまで、データサイエンスの学習・利用に関連する内容であればなんでも相談できます。クリニック担当教員(基盤教育センター所属)が回答・助言をすることで、みなさんの学習をサポートします。【詳しくは、基盤教育センターのページをご覧ください】

<https://piloti.sophia.ac.jp/jpn/clcl/dsclinic/>

④中央図書館ラーニング・コモンズ

中央図書館地下1階の「ラーニング・コモンズ」は、講義を受けて知識を得る「受身」型から、自ら考え、友人と討論し、考えをまとめる「問題解決」型へと変化している学習に合わせた環境が整っています。紙の図書・雑誌ばかりでなく、データベース・電子ジャーナル等の学術資源も活用し、学習することができます。また、プレゼンテーションの準備もできる多目的のスペースとして使用でき、声を出す必要がある授業のオンライン受講も可能です。

ラーニング・コモンズではノートパソコン(2019年度に上智大学後援会よりご寄付)やプロジェクターの貸出も行っています。ラーニング・コモンズの一角にある学習支援席では、スタッフの大学院生にレポート・論文の書き方、情報収集の方法、プレゼンテーションの方法といった学習全般について相談することができます。

【詳しくは、図書館のページをご覧ください】 <https://www.lib.sophia.ac.jp/>

6. 教職・学芸員課程

教職・学芸員課程センターには専任の教員2名と職員が配置され、各学部・学科の課程担当教員と協力し、教員免許及び学芸員資格の取得を支援するために下記の業務を担当しています。

- ①教職課程に関する業務(教職課程履修のためのガイダンスの実施、履修相談への対応、各種実習手続き、教員免許申請手続き、証明書発行等)
- ②学芸員課程に関する業務(学芸員課程履修のためのガイダンスの実施、履修相談への対応、証明書発行等)
- ③教員養成制度、学芸員養成制度の改革への対応(文部科学省への認可申請・届出等)
- ④その他(教員採用試験対策支援、神学講座(免許法認定公開講座)開講、中高の教科書・指導書の貸出、学校でのボランティア情報の提供、連携教職大学院への推薦等)

【詳しくは、教職・学芸員課程センターのページをご覧ください】 <https://piloti.sophia.ac.jp/jpn/katei/>

7. 大学院進学

社会が高度化かつ複雑化する中、深い専門知識と課題発見・解決能力によって社会の変革をリードし、社会全体の成長・発展を牽引することができる高度専門人材に対する期待がより一層高まっています。上智大学では、高度な智を備え、分野を横断し、広く社会を俯瞰することができるリーダーを育成するための大学院教育にも注力しており、大学院進学を支援するための制度を拡充しています。

(1) 大学院の構成

上智大学大学院は、学部教育を担う学部を基礎に10研究科、1学位プログラムで構成されており、1千数百名の大学院生が学んでいます。博士前期課程26専攻(修士課程および学位プログラムを含む)、博士後期課程23専攻、専門職学位課程としての法科大学院で構成されています。各研究科の研究内容など、詳しい情報は、「上智大学大学院案内」または大学公式サイトをご覧ください。(<https://www.sophia.ac.jp/jpn/academics/g/>)

(2) 大学院入学試験

大学院入試は専攻により募集／実施時期、選考方法および入学時期が異なります。日本語で授業を行う専攻は春(4月)入学で、多くの専攻は例年9月と2月の2回入試を実施しており、本学卒業見込者への筆記試験免除制度を実施している専攻もあります。英語で授業を行うグローバル社会専攻、地球環境学専攻国際環境コース、理工学専攻グリーンサイエンス・エンジニアリング領域は、春(4月)入学と秋(9月)入学があり、書類審査による選考を実施しています。

【詳しくは、入試情報サイト 大学院入試のページをご覧ください】 https://adm.sophia.ac.jp/jpn/in_ad/

(3) 早期卒業制度

大学院進学などを踏まえ、優秀な学生にはできるだけ早く、より高度な教育と研究を受けさせるべきだとの考え方に基づき、一部の学科において早期卒業制度を導入しています。これは、優秀と認められる条件を満たした学生に、学部の3年間(または3年半)で学士の学位を授与する制度です。

大学院も同様に、一部の研究科専攻において早期修了制度を導入しています。

(4) 大学院生研究活動支援制度

大学院生を対象として以下の4つの研究活動支援プログラムを用意し、充実した研究活動とその成果発信を支援しています。

A.学会参加・発表支援プログラム (博士前期・修士課程 年間上限10万円、博士後期課程 年間上限15万円)

B.外国語による研究成果公表支援プログラム (年間上限10万円)

C.日本学術振興会特別研究員申請支援プログラム (日本学術振興会特別研究員への申請・選考・採択状況に応じて支援)

D.フィールド調査支援プログラム(海外:20万円、国内10万円)

(5) 上智大学大学院博士後期課程研究者育成奨学金

上智大学では、本学の研究と国際的な発展を牽引する卓越した研究能力を有する優秀な研究者を育成すべく、2022年4月より「上智大学大学院博士後期課程研究者育成奨学金」を新設しました。この制度は、本学大学院博士後期課程に在籍する正規生で要件を満たす者すべてに奨学金を給付し、その研究活動を奨励するものです。

【詳しくは、上智大学大学院博士後期課程研究者育成奨学金のページをご覧ください】

<https://piloti.sophia.ac.jp/jpn/scholarship1/postgraduate/kenkyuikusei/>

(6) 博士後期課程学生を対象とした支援プログラム「Sophia SPRING Project」

博士後期課程学生をはじめとする大学院生は、自然科学系、人文・社会科学系問わず、我が国の科学技術・イノベーションの将来を担う存在として注目され、全国的に強化されています。上智大学でも国立研究開発法人 科学技術振興機構による「次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)」の助成を受けて、「持続可能な社会の未来を拓くグローバル博士人材育成プロジェクト(Sophia SPRING Project)」を 2024 年度より開始しました。

本プロジェクトはキリスト教ヒューマニズムのもと、「他者」に寄り添い、科学技術・イノベーションの力によって持続可能な社会の未来を拓くグローバル博士人材を育成することを目的としています。生活費相当額と研究費を支援する経済的支援に加えて、学際性・国際性・人間性を高める能力開発プログラムの提供、一人ひとりに合ったキャリア支援の3つの支援プログラムを柱とした事業を通じて、アカデミア・産業界など多様な場面で世界を舞台に活躍できる博士人材への成長を支援します。

【詳しくは、Sophia SPRING Projectのページをご覧ください】 <https://sophia-spring-project.sophia.ac.jp/>